

教育費

〔質疑〕小中学校学習用コンピュータ整備業務委託料が計上されているが、内容とスケジュールについて伺う。

〔答弁〕新型コロナウィルス感染症緊急経済対策において、GIGAスクール構想として令和5年までに達成することとされている児童・生徒一人1台端末の整備スケジュールの加速・前倒しや、家庭学習のための通信機器整備支援、学校からの遠隔学習機能の強化の方針が示された。

このことから、本市においても児童・生徒が利用する学習用コンピュータなどを整備する費用として、予算計上したものである。

また、今後のスケジュールについては、現在進めている各学校のネットワーク環境施設整備事業の進捗状況にもよるが、本格的な稼働は10月頃になると考えている。

なお、パソコンの納入は来年2月末頃の見込みである。

〔質疑〕Wi-Fi(無線ネットワーク接続機器)関連も小中学校に整備することだが、この機器は新型コロナウィルス感染症防止として児童・生徒の自宅でもリモートとして使用するものなのか、それとも校内で使用するものなのか伺う。

〔答弁〕児童・生徒の各家庭に貸し出しているようなWi-Fi機器を購入する予定としている。

◎令和2年度白石市国民健康保険特別会計補正予算(第1号)

〔質疑〕新たに創設された新型コロナウィルス感染症に係る傷病手当金として99万円が計上されているが、第2波、第3波が予測されている中、この額で足りるのか。

〔答弁〕この傷病手当金は、国民健康保険の被保険者で、給与の支給を受ける被用者が新型コロナウィルス感染症に感染または感染が疑われるときに、療養のため労務に服することができなくなった期間の一部

について支給するものであるが、現在における対象者は少ないと考えていることから、一人6万6千円の15人分として見込んだ。

ンターチェンジの事業化に向けて、道における救急医療搬送等の現状について報告を受け、今後の進め方について協議を行った。はじめに、当局よりこれまでの取り組みと検討経過について報告があり、昨年9月27日に「(仮称)白石中央スマートインターチェンジの準備段階調査への採択」が国土交通省より発表されたことを受け、11月に「第1回(仮称)白石中央スマートインターチェンジ準備会」を開催した以降、今年3月までに計3回の準備会を開催し、関係機関との協議を進め、スマートインターチェンジの位置・構造、管理運営形態、期待される効果、利用促進方策など、実施計画書に記載する内容について検討を進めてきた旨の報告があった。

スマートインターチェンジ設置推進特別委員会中間報告

- 委員長 四電 英夫
- 副委員長 大野 栄光
- 委員 大森 貴之・伊藤 勝美
- 保科 善郎・佐久間 儀郎
- 菊地 忠久・松野 久郎

定例会初日(6月8日)、スマートインターチェンジ設置推進特別委員会の活動経過について、四電英夫委員長より中間報告がなされました。

報告の概要については、次のとおりです。

令和2年5月18日に関係部課長の出席を得て、スマートイ

準備会で確認された「期待される主な効果」として、「物流の効率化による企業支援と新規企業誘致による地域活性化」「白石市中心市街地の賑わい創出」「新たな周遊観光ルート形成による観光振興」「東北